



第463号

2024年2月22日発行
日工同窓会広報委員会
編集責任者

瀧澤 之靖

発行人 細金 敦

日工同窓会事務局
日工同窓会館
〒317-0077
日立市城南町5丁目14番13号
TEL (0294) - 21-5237
FAX (0294) - 21-5241
E-mail:
dosokaij@net1.jway.ne.jp
http://nikkoudousokai.net/印刷所
大成印刷株式会社

『足元を固め 未来へ飛躍を』

(株)日立製作所 鉄道ビジネスユニット
Japan Lobbies for the Railway Business Units
水戸車両システム統括本部 水戸生産本部
電気品製造部長 福田 敦志

日工同窓会の皆様にはモノづくりの第一線での活躍、誠にありがとうございます。また、日々の生産活動を通じて会員各位の技能・スキル向上および技能・技術の伝承による事業への貢献に対し、深く感謝申し上げます。

小職が所属いたします鉄道ビジネスユニット水戸事業所製造部におきましては、鉄道車両用駆動制御装置をメインに、板金・溶接・塗装・組立まで一貫生産する少量多品種の非量産工場ですが、日工同窓会をはじめとした従業員の皆様が一体となり、創意工夫・切磋琢磨をしながら高い目標に向かい奮闘しているところです。

最近ではコロナ禍の影響も感じられなくなってきましたが、ウクライナ・中東での緊迫した状況や地震・豪雨などの天災、物価変動などの影響もあり、モノづくりを取り巻く環境は大きく変化し続けています。変革に取り組み中でスピード感が必要です。改めて現状を振り返り足元を固める取り組みが重要と感じています。まず初めにコンプライアンスです。コンプライアンスとは「法令遵守」を意味しますが、倫理観、公序良俗など社会的な規範に従い、どのような状況においても、公正さ・誠実さ・透明性を保ち倫理的に行動することが求められます。信頼やブランドイメージに大きな影響を与えるだけ

けではなく、経済的な損失を引き起こす可能性があることは、ご存知の通りだと思います。モノづくり職場においては、基準・図面や手順書通りに作業することが重要であり、指示が無い作業や異常が発生した場合は、作業を止めて報告する必要があります。一般的なことではありますが、正しい行動を取るためには正しい知識を身につけ、その知識を正しく理解して実行する必要があります。矛盾が生じた場合は問題と判断し、作業を止めるということになります。しかしながら、個人的な感情で良かれと思い誤った判断をすることや対処方法を誤ることがあるかも知れません。その時は、コンプライアンス上問題が無いかの観点で見つめ直し、迅速に上長へ相談・報告することが絶対になります。最適な答えが見つからない場合もあるかも知れませんが、違反となる行動を抑制することは出来ます。その一方で、上長や関係部署は、上がってきた意見に対して真摯に向き合い、目先や自分本位の

今号の主な内容

事業所幹部ご所感	1面
支部長登場、茨城県知事表彰、日立市消防表彰	2面
日高支部秋のイベント、ラグビー部OB新年会、事務局員交代	3面
学校だより	4～5面
本部会員の頁	6～8面
日専校歴史写真【13】	9面
会員の消息、編集後記	9面
小平浪平翁生誕150年記念展	10面

考えで判断せず全員が同じ思いを共有し解決していくことで、より良いサイクルが生まれリスクの無い風通しが良い職場とコンプライアンスを重視した文化を創ることが出来ます。次に人材育成です。随分前ですが、外部の方から「モノづくりに携わる人材は職人であってほしい」と言われたことがあります。解釈に違いがあるかも知れませんが、自分の仕事に誇りと責任を持ち、基本に忠実でありながら高い技能を持ち合わせる。こと、小さな変化も見逃さない洞察力を兼ね備えてほしいと言うことだと思っています。また、その言葉は日立のモノづくりに期待を込めたものだと思釈しています。多技能化を推進する中で、一つの技能を突き詰めることは難しいと思いますが、

これらを実行するためには、意識的にコミュニケーションを取ることが大切であり、伝統ある日工同窓会は部門や事業所の壁を越えた絆で繋がれており、非常に大きなアドバンテージがあります。この絆を同窓生以外にも広げ、多様な考え方を尊重しながら足元を固める大きな輪を作り、「製作所」の名前を持つ日立のモノづくり魂を進化させながら後世に受け継がれ新たな未来が切り開かれていくものと信じています。最後にありますが、日工同窓会の益々のご発展と会員皆様、ならびにご家族皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げます。



同窓会ホームページはスマートフォン等からも上記のQRコードを読み取るだけで簡単にアクセスが可能です！

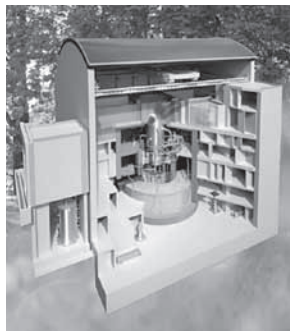
支部長登場

日立支部

支部長
野村 公彦 (77卒)

鉄道用モータ

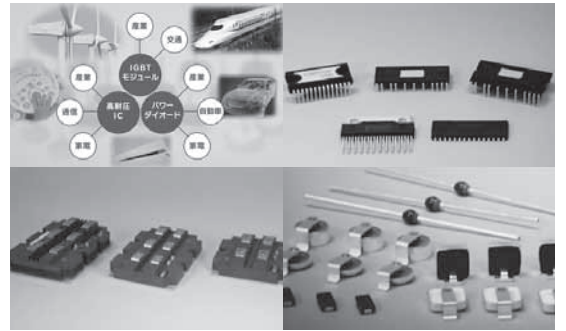
日工同窓会会員の皆様が、日専校での楽しい学生時代を過ごした、思い出深い日立市で、活動している日立支部の紹介をさせていただきます。日立支部は電製、生技、PU製、原子製と4つのグループで構成され、総勢265名の会員で活動しています。以前は、旧海岸工場も同じ日立支部として、800名近い大規模な支部として



革新軽水炉HI-ABWR

て共に活動していましたが、組織の変更に伴い、残念ながら日立支部は分散された形となります。

日立といえば発祥の地でありモーターの(山手)、インフラ開発や管理、事業所の設備保全業務を請け負う(国分)、鉄道/自動車/家電等の社会インベーション事業に貢献するPD製、原子力発電所建設から定検業務に従事する原子製の(臨海)と、4つのグループが3地区において製品製造から現地対応まで幅広い



IGBT、ダイオード、高耐圧IC等

業務に関わっています。

支部の活動としては、今年は4年ぶりに納涼ビアパーティを開催し、当日は会員が約100名、事業所幹部や議員団の方々にも参加いただき、大盛況となりました。会員が一同に集まり、世代関係なく楽しい時間を過ごせたことは、支部活動としてとても嬉しいことであり、今後の活動の糧になります。また、日立市での活動ですので、日専校の行事である日専祭にも参加させていただいております。以前はバザー、昨年からは、勇気、大抽選会を開催し、生徒より大好評を得ていますので、毎年の恒例行事として現役の後輩に喜んでもらえればと考えています。

最後に、日工同窓会並びに関係者の皆様に日々の感謝を申し上げますと共に、日立支部へのご指導、ご支をよろしく願っています。

支部長ってこんな人

会員の皆様も犬や猫、うさぎ他、ペットを飼われているご家庭も多いと思います。

我が家も11年前に新しい家族を迎え入れました。『犬を飼って散歩するのが夢』と当時小学生だった娘の希望もあり、悩んだ末に決断したことを覚えています。(夢は叶えてあげられましたが、散歩は長続きしませんでした)。そんな愛犬も高齢犬です。家族が帰宅すると、ワンワ



ン吠えながら尻尾を振って迎えてくれますが、気が乗らないと反応も小さく、私の場合は遊ぶ時間も短いなと感じています。とはいえ、ソファに座ると膝に飛び乗って甘えてくる可愛い家族ですので、今後も可愛がつて思い出を作っていきたいと思っています。

2023年度茨城県技能者表彰

4名が受章(県知事表彰)
《3名は前号で掲載済》

伊藤 和博氏 (74卒・日立)
(生産設備保全工)



長年にわたる設備保全業務に従事。新たな保全手法を開拓するな

ど、工場の大型設備の整備と工場内インフラの安定化に貢献。安全に関して豊富な知識を有し、法規制設備の第一人者として活躍してきた。

また、職業訓練指導員を取得するなど、技能伝承や後進指導・育成にも尽力している。

日立市消防表彰

2024年1月7日に日立市の出初式が開催された。消防関係者443名、消防関係車両43台、来場者は約800名、晴天の空の下、消防車が並ぶ姿はまさに圧巻である。自衛消防団としてプロテリアル連合消防隊、高砂自動車班・佐長の薄井健男氏(89卒)が表彰された。長年に渡る消防隊としての経験を活かし今後も活躍が期待される。



表彰の薄井健男氏 (89卒)



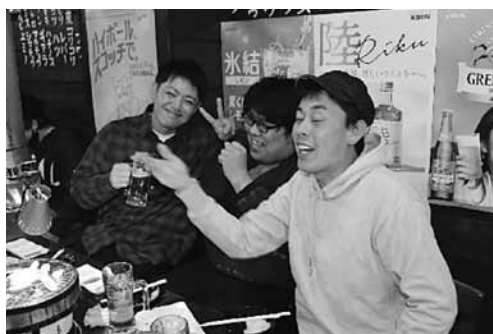
日高支部 秋のイベント開催

会員総数78名のプロテリアル日高支部の年間行事最大のイベントが11月11日に日立の『焼肉・繫』を貸切つて開催された。全国の支部でもそうかも知らないが近年支部行事に若手会員の参加率が低いことが課題となっている。しかしながら日高支部はそうではない。7月のボウリング大会もそうだが今回も若手の参加率が非常に高い。年配会員としてはありがたいと感じる。

若手が望むものは何であるか？どうすれば若手が来てくれるか？数回の打ち合わせで支部役員が出した



秋のイベント 焼肉・繫にて ～会員の輪を繋げよう～



盛り上がりを見せる若手会員

【答え】は参加費を安く、若手が好きなもの、そう『焼肉』だ。

中には夜勤前に参加し途中退席する会員もいたほどだ。アルコールを飲まないのも特性かもしれない。もちろん自由だ。

企画委員の進行、ミニゲームで盛り上がり当然のように時間は延長。談笑、アツい語らい先輩後輩というよりも仲間という言い方が適切に感じた。まさに会員の為のイベントである。

是非、各支部にも展開したい。これらを担う若い世代が同窓会をより身近に感じるために【先輩】は何をすべきか。日高支部には感じるものがあると言えよう。先人からの糧はまさに店名同様に繫いだと感じる時間だった。

鈴木 光彦(78卒・日高)

日専校(科技高)ラグビー部OB

2024年新年会を開催

2024年1月13日(土)に、毎年恒例の日専校ラグビー部OB会の新年会を、東海村の茶房OKANOにて開催した。

本OB会は、1980年に綿引修



先生が創部したラグビー部の教え子たちが先生を囲んで毎年実施しているもので、最初の卒業生である66卒から79卒のメンバーによる総勢29名での新年会となった。

今年は、大学ラグビー選手権決勝の日ということもあって、1978年度の優勝メンバーで母校のネクタイを締めて参加された綿

引先生よりラグビーに絡めたご挨拶を頂戴した後に、幹事事業所を代表して大みか支部の瀬谷善行氏(68卒)の乾杯でスタートした。アルコールが進むにつれ、当時の厳しい練習や試合でのエピソード、歴代部員や合宿等でのディープな想い出話で大いに盛り上がったところで、今回初参加の森谷氏、生田氏、菅原氏(79卒)より自己紹介を兼ねて挨拶をいただいた。一方、先輩側からは、高安博明氏(68卒)による県政報告、北原祐二氏(74卒)による市政報告をいただいた後に、令和5年秋に栄えある黄綬褒章を受章した滝安夫氏(70卒)、「現代の名工」を受章した高橋忍氏(72卒)から貴重な経験談と後輩に向けた

メッセージが贈られ、非常に盛り沢山な会となった。最後は、遠路ご出席いただいた初代キャプテンの大野浩行氏(66卒)から締め挨拶をいただき、今回出席できなかったOBにも声かけ合っただけのことを皆で誓い合い散会した。

記 佐藤 貞男(68卒・国分)

事務局員交代のお知らせ

事務局会計担当の樫村泉さんの2023年12月末退任に伴い、同年11月1日付で川崎有美さんが事務局会計担当に就任し、業務引き継ぎを行ってしました。

樫村さんには、約9年にわたり同窓会会計の円滑な運営にご尽力いただきました。

長年のご苦勞に感謝し、今後益々のご活躍を祈念申し上げます。



川崎 有美さん



樫村 泉さん

学校だより

以下に記載の学年は、各学校行事時のものである。

2024年1月から

2月までの資格試験一覧

この期間に日専校生が取り組んだ資格・検定試験の一覧を記載する。

- 1月19日 実用英語技能検定一次 2月18日 二次(全学年)
- 1月21日 技能士シーケンス制御 3級学科(2年電気科)
- 1月30日 技能士シーケンス制御 3級実技(2年電気科)

事業所交流セミナー

2年生を対象に、①事業所からの情報提供とニーズ伝達、②事業所実習・配属への意識付けを目的とし



事業所交流セミナー

た事業所交流セミナーを、10月から1月にかけて日専校特別教室において3回実施した。講師として来校された日立グローバルライフソリューションズ多賀事業所の金澤歩夢さん(106卒)、日立Astemoの斉藤豊城さん(105卒)からは技能五輪への挑戦について講演いただいた。日立ビルシステム水戸事業所の大宮昭弘さん、瀧田裕樹さんからは、安全の重要性や日専校生に期待するものなどについて講演いただいた。それぞれ、生徒から出された多くの質問に対して、講師から丁寧なアドバイスをいただき、大変有意義な時間となった。

関東工業高校剣道大会

12月24日、東京都立多摩工科高等学校にて、第6回関東工業高校剣道大会が行われた。関東地区に所属する工業高校21校が参加し、男子は団体戦、女子は個人戦で実施された。関東大会に出場する強豪校も参加するこの大会に、本校は第2回・第3回と出場し、男子団体で2連覇している。しかし、近年新型コロナウイルス感染症の影響で大会に参加できず、3大会ぶりの出場となった。男子団体は予選リーグを1位で突破し決勝トーナメントに進出したが、優勝した栃木県立宇都宮工業高校に大将戦の末に惜敗しベスト8という結果で終わった。女子個人に出場した大橋由依(1年機械科)は初戦こそ硬さ



関東工業高校剣道大会

が見えたが、試合を重ねるごとに調子を上げ、4回戦を勝ち抜き決勝戦に進出した。決勝戦の相手は多摩工科高校で上段を構える選手。これまで上段選手との対戦経験が少なく苦戦したが、試合終盤で自分の間合いをつかみ、小手を決め一本勝ちで優勝することができた。また、大会を通じて県外の工業高校生との新たな交友を深めることができ、貴重な経験となった。

1年機械科 大橋 由依

関東工業高校剣道大会に出場するのは初めてだったので、初戦は緊張と不安でなかなか思うように動くことができず、危うい場面もありましたが、2試合目からは場の雰囲気にも慣れ、自分のペースで試合をすることができ、決勝まで勝ち進むことができました。決勝の相手は上段の

選手で、上段に勝利した経験が少ない自分にとっては少なからず苦手意識がありました。絶対に負けないという気持ちで試合に挑み、出コテをとることができました。今大会で経験したことを次の関東予選や全国予選で、どんな相手でも絶対に負けないという強い気持ちで挑み、良い結果に繋げていきたいと思っています。

2年生国内英語研修

1月14日、15日、福島県天栄村にあるブリティッシュ・ヒルズにおいて、2年生の英語研修を実施した。学年単位での訪問は、3年目となるが、例年と比べると積雪も少なく、また、団体の宿泊者も本校のみで活動しやすかった。施設については、英国から材料を運搬して建築された数多くの建物や調度品により、日本とは思えないような異国情緒豊



2年生国内英語研修

かな環境を作り出していた。研修は、3つのグループに分かれ、現地スタッフと英語のみ使用した2日間で5つの研修を受講するというタイトなスケジュールではあったが、参加が自由な2つのアクティビティにも生徒が挑戦するなど、積極的な考動が印象的であった。修了証書授与式では、考動アクション委員長の崎川真之介(2年電気科)と小澤孝次郎(2年溶接科)の英語による挨拶で講師のスタッフに御礼を伝えることができた。語学力の向上だけでなく、校外の環境や施設におけるエチケット・マナーの習得にも繋がる研修となった。

技能士シーケンス制御3級検定



技能士シーケンス制御3級検定

1月21日に学科試験、1月30日に実技試験の2日間、2年生電気科制(5頁へ続く)



成沢小学校プログラミング教室

成沢小学校プログラミング教室

2月1日、日立市立成沢小学校の4年生33名を対象にプログラミング

(4頁の続き)

御コースの全員8名が国家検定「技能士シーケンス制御3級」試験に挑戦した。本検定試験は自動生産設備等の制御(頭脳)に相当するPLCのプログラム作成レベルや周辺機器(スイッチ、センサー、モーター等)構成による総合的な技能技術レベルを認定する試験である。生徒たちは、シーケンス制御プログラムの基礎となる3級レベルのラダープログラムを実習で学び、過去問題や模擬問題に取り組み、十分に準備をして試験に臨んだ。当日は全員が緊張した面持ちながらも落ち着いて取り組み、培った技能を遺憾なく発揮していた。可否は3月8日に発表される。

教材、マイクロビットを活用した出

前授業を実施させていただいた。日専校からは職員2名と2年電気科生徒8名が出向き、小学生たちとカーリングロボットを用いたプログラミング学習を楽しんだ。小学生の目線に立つて準備・実行してくれた生徒たちの動きは素晴らしく、大変頼もしく感じた。また、全力で楽しんでくれた成沢小の児童たちの笑顔は何より嬉しいものだ。今後も小中学生に対して、自分の手で何かの物や動きを生み出すことの喜びを感じてもらう機会を提供することを大切にしたいと考える。成沢小と日専校は徒歩10分という近所さんでありながら、なかなか交流の機会を創ることができずにいた。今回貴重な機会をくださった成沢小の先生方に心より御礼を申し上げる。

(広報担当: 鈴木 江里)

2年電気科 猪口 健太

成沢小との交流にあたって、学校で先輩との会話と小学生との会話では違った会話になるだろうと不安でした。しかし、一緒にプログラミングに取り組みうちに同じ目線の会話にも慣れて楽しく関わることができるようになりました。小学生たちにより親しみを持ってもらえるように、事前に自分たちのあだ名を考えたり、楽しい自己紹介をするなど工夫して臨みましたが、思っていた以上に小学生の反応が良く、やりがい

を感じました。このような機会を活かしてもっと沢山の人にモノづくりの楽しさを知ってもらいたいです。

工業基礎学力テスト

2月2日、2年生が工業基礎学力テストを受験した。「工業教育の質の確保・向上の観点から、生徒の基礎学力の習得と学習意欲の向上を図るとともに、自校生徒の基礎学力の定着度合いを把握し、指導の工夫



工業基礎学力テスト

充実に資する」ことを目的として毎年実施されている。受験科目については、電気科は「電気」①直流回路②静電気、磁気③交流回路、三相交流④電気計測⑤情報基礎、通信技術の基礎の5つの観点。機械科は「機械」①力の合成・モーメント、仕事と動力②測定、機械製図③応力とひずみ、反力と曲げモーメント④材料の強さ、機械材料の性質⑤溶接・切

削・鍛造、材料試験の5つの観点。溶接科は「材料」①材料の一般的知識と性質、状態図と結晶組織②材料の試験と検査、炭素鋼③炭素鋼の熱処理、材料加工と管理方法④塑性加工、铸造⑤セラミックス、切削加工の5つの観点からそれぞれ出題された。各科幅広い分野からの出題であつたが、これまで学んで来たことを真剣な面持ちで取り組んでいた。

技能五輪電気溶接茨城県予選会

2023年度技能五輪「電気溶接職種」茨城県大会が開催され、本校より益山松(2年溶接科)が出場した。この大会は2024年度技能五輪全国大会の県代表を選考する大会であり、同日、県内の4会場で分散開催された。それぞれの会場で卒業生4名、事業所実習生の佐藤琉(3年生溶接科)大曾根陸(同)中條大吉(同)の3名、計8名が出場した。益山が本格的に課題製作の練習を開始したのは昨年10月、先輩方と比べ練習期間も短く厳しい状況での参加となった。また、職業能力開発協会、技能検定員が立会の元で行われる公式の大会の出場も初めての経験で、表情からも緊張している様子が伺えた。普段ミスをしない箇所でもミスをするなど、すべてが普段通りに課題を製作することが出来なかったが、今できることを十分に発揮して競技を終えることが出来た。2月8日、日立事業所に全員の課題を集め

採点を行い、3月中旬には県代表の推薦を得られるかが決定する。

2年溶接科 益山 松

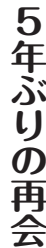
今回の大会に出場して一番感じたのは「訓練は本番の如く。本番は訓練の如く。」ということを実践することの難しさです。先生方には日々の訓練において「課題を製作する時はいいつも本番だと思ってやること」と言われていました。しかし、大会を終え、自分としては普段の訓練から本番を意識していたはずなのですが、いざ本番では良くも悪くも普段より課題製作の時間が大幅に短縮したのです。これまでの訓練では無意識のうちに無駄な時間があったということが分かりました。今後の課題訓練ではこれまでに以上本番を意識して行い、溶接のレベルを上げていきたいです。



技能五輪電気溶接茨城県予選会

喜寿記念一泊同期会開催

そしてまだまだ頑張っていこう、
いかなくとはと、二年後の再会を約



編集小委員会 主査 戸村 紀一

同期会活動報告（偶数卒回）

（1月26日に行われた2023年度後期「運営会議」で報告されたものです。）

◆42回卒（齋藤 實則）

- (1) 3年おきに実施していた同期会（一泊）は、コロナ禍以降、行っていない。
- (2) この間、幹事による話し合いは続けている。
- (3) いよいよ「米寿」、ホテル泊まりは色々な意味でリスクが高い。早めにやる方向で協議中である。

◆44回卒（関根 幸一）

1. 同期の動向（年齢：傘寿＋3歳前後）

- ①春と秋に金砂郷CCで2回のゴルフを楽しんでいる
参加者は7～8人（2組）でゆっくりプレー
- ②前回から同期の2人（本部会員）が逝去
- ③身体（脳と肢体）に不自由者（特に方向迷い、ひざ関係）が増えた
- ④免許証返納者がポチポチ
- ⑤在宅テレビ鑑賞会者がかなり増えた（外に出るのが面倒）
- ⑥ボランティア活動を継続的に行動する人はまだ健在
- ⑦小平浪平翁（日立創業社長）生誕地を訪ねるバス旅行に2人（荒井、関根）が参加

2. 今後の予定

- ①コロナ禍が緩和された（また増えてきたが）ので、日帰り同期懇親会を実施計画中（晩春～初夏に日立市近郊で）
- ②継続して同期ゴルフ懇親を4月に実施する（既に予約済）

◆46回卒（永盛 永一）

今年は、同期会を開催予定であるが、前回の参加が25人程度なので開催するか迷っている。

ゴルフは、毎月実施。最初の頃の参加者は、十数人いたが最近では6人くらいに減っている。昨年2人が逝去した。

◆48回卒（字原 勝己）

48回卒同期会は、前回第5回開催の「古希祝」開催から、コロナの鎮静化を待ち続けて9年。年齢も傘寿を迎える頃になり、各人から同期会開催の要望が多数届き、コロナ病を蹴落とす勢いを付ける為にも、「傘寿の祝い」を開催しようと決断。

令和5年10月12日に日立駅前「ホテル天地閣」にて、総勢19人の皆さんと元気よく、第6回目を開催することが出来た。

幹事長挨拶に始まり、出席者全員による近況報告等で会話ははずみ、全員が笑顔で大声を張り上げての「談義3時間」であった。

ただ、残念なことに「傘寿」という年齢から前回出席者数から大幅に低減。同期会としての条件が保てない状況に変化した為、出席者全員の合意により今回の同期会を最後に解散することとした。

しかし、寂しきも残ることから今後は、個人的な付き合いを主体とした活動を活発化することを約束して散会した。

尚、同期会解散の為「幹事」という人稱を改め、「48回卒の連絡員」として、正:字原、副:千田が出来限りの期間を勤めることが全会一致で決定され、傘寿祝いを兼ねた第6回同期会を無事終了できた。

◆50回卒（関 猪一郎）

1. 第53回ゴーマル会ゴルフコンペを2023年3月29日（水）、グランドスラムカントリークラブにて12人の参加で行った。
2. 第54回ゴーマル会ゴルフコンペを2023年7月27日（木）、日立高鈴ゴルフ倶楽部にて8人の参加で行った。ゴルフ会場を変えたのは、グランドスラムカントリークラブの値上げとロッカー、コース乗り入れの費用がかさみプレー費が高くなった為である。
3. 第55回ゴーマル会ゴルフコンペを2023年11月30日（木）、日立高鈴ゴルフ倶楽部にて8人の参加で行った。
4. 2024年度のゴルフは、3回/年で計画する。
第56回を3/22（金）に日立高鈴ゴルフ倶楽部で予定している。
5. 50回卒は喜寿を迎えたので、同期の皆さんに声をかけ「喜寿祝い」をしようとの意見が出ている。
6. 郵便代も今年から30円の値上げとなりそうなので、同期会の開催案内は、スマホのSNSで通知することを考えている。

◆52回卒（石田 正喜）

52回卒の活動は、隔年の一泊行事を行ってきたが、2019年10月の古希祝いを兼ねた懇親会以来、実施していない。

コロナも感染症5類となり、人の動きは活発になってきたが少し不安がある。このような状況の中、幹事会にて「喜寿の祝い」を2025年の10月頃に盛大に実施することに決定した。

その他、本部主催行事については、そのつど参加者を募って積極的に参加するようにしている。

◆54回卒（大森 晴男）

[1]一泊同期会開催 11/20～21 13人参加

大子温泉リバーサイド奥久慈福寿荘にて、コロナ禍等で5年ぶりの開催となった。2人の初参加もあり、夜中まで大いに盛り上がった。

[2]ゴルフ（年4回目標）

- ①3/31 JGM笠間ゴルフクラブ 4人参加
- ②6/8 ゴルフ倶楽部セブンレイクス 7人参加
- ③8/28 内原カントリークラブ 8人参加
- ④11/20 袋田の滝カントリークラブ 6人参加

[3]その他

10/13 NS会ゴルフ 日立ゴルフクラブ 3人参加
優勝、準優勝、飛び賞と54回の実力をいかんなく発揮した。

◆56回卒（内山 薫）

コロナの第5類扱い以降、活動開始のタイミングを伺っていたが、新年を機会に活動を開始した。

まず、本部会員の現況と今後の運営に対する意見を集約すべくアンケートを配信し意見を聴取中。今後の活動の方向を決めていく。

なお、一部では活動を始めており、旧佐和支部メンバーで2023年11月16日に56回卒同期会を開催している。

◆58回卒 (戸村 紀一)

【第4回同期会 2019年3月30日 於：「須賀屋」】



当時の理事会には顧問の大先輩も出席され見解を述べられた。

私のようなひよっこは席を温めていただけだった。その後顧問制度が廃止され、本部会員運営委員会が発足した。(30年前のことである)

平成8・9年度に長期ビジョン委員会で「21世紀に向けて組織・運営をどうするか」を議論し、平成10年には会館運営委員会に転じた。

2002年に早期退職し、03年、同窓会報の本部会員の頁を担当する編集委員となって現在に至っている

また、同時に非常勤として事務局にも入り、基本課題検討委員会の事務局を担当した。

85周年記念総会では実施できたが、90周年の記念総会を実施する一か月前に東日本大震災が発生し中止となった。このようなイベントの時は事務局としてとりまとめを行った。

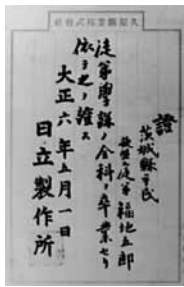
(以下次回に続く)

日専校歴史写真[13]「大正、昭和初期の卒業証書」1917(大正6)年 1926(大正15)年 1930(昭和5)年

1917(大正6)年4回生の卒業
記念、高尾さん、馬場さんと



1917(大正6)年 徒弟養成所卒業証書



(卒業証書は4卒福地五郎氏提供)

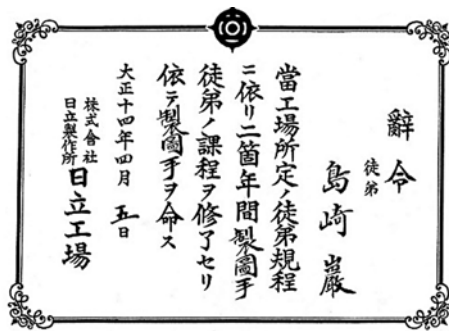
【徒弟養成所卒業証書】
1917(大正6)年
4卒福地五郎氏の辞令によ
ると卒業は1917(大正6)
年5月1日。初期の徒弟養成
期間は徴兵適齢までの年季
勤めの制度であった。一級
先輩の3卒熊谷貞次氏の養成
期間は1912(明治45)年
6月～1916(大正5)年
10月の4年5ヶ月。福地氏
は1912(明治45)年4月
～1917(大正6)年10月
の5年7ヶ月であった。
卒業証書は4卒福地五郎氏提供

【製図手辞令】1925(大正14)年

【日立工手学校卒業証書】
1926(大正15)年

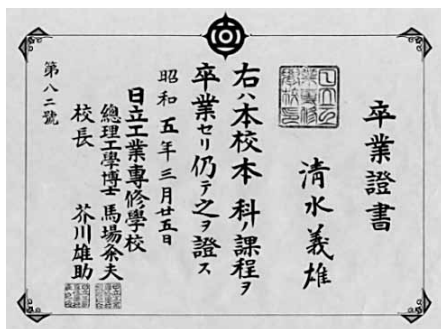
1921(大正10)年の頃、徒弟教
育の課程を終えた者のなかには、さら
に勉学を希望する者が多数いた。そ
こで、高尾直三郎日立工場長、馬場衆
夫副工場長(当時)は1921(大正
10)年4月、上級の学校である日立工
手学校を設立した。校長に馬場氏、教
頭に児玉寛一氏(当時は日立工場教育
担当、後年に日専校第2代校長)が
あたり、月曜日から金曜日までの毎
夕、電気科、機械科に分けて授業を開
始した。履修期間は1ヶ年と定められ
た。工手学校は、1928(昭和3)
年に廃止となり、生徒は研究科に編入
された。(工手学校については同窓会
報452号参照)

(辞令と卒業証書は14卒島崎巖氏提供)



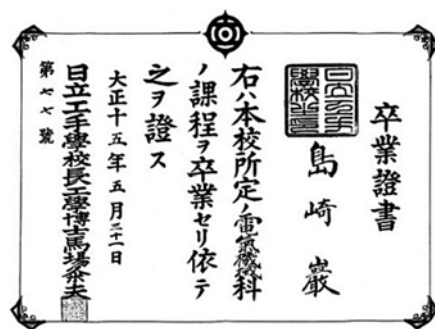
1925(大正14)年 製図手辞令

※本連載では日工同窓会報(記念会報
含む)から引用する場合があります。
【同窓会ホームページ 歴史写真館 ユー
ザー名「rekishi」
パスワード「oban100」



1930(昭和5)年 日専校卒業証書

【日専校卒業証書】
1930(昭和5)年
(卒業証書は19卒清水義雄氏提供)



1926(大正15)年 日立工手学校卒業証書

●会員逝去

謹んでご冥福を
お祈りいたします

◎本部会員

稲田 憲氏(42卒)

23・11・1

松本 勇氏(43卒)

24・1・8

泉 栄一氏(46卒)

24・2・11

●ご家族逝去

お悔やみ申し上げます

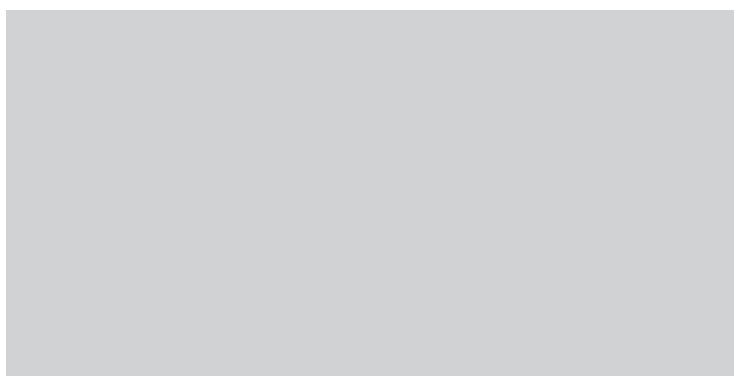
◎家族死亡

志賀 重胤氏(77卒・山崎)ご尊父23・7・11

畠山 俊秀氏(73卒・佐和)ご母堂23・11・10

永村 修一氏(69卒・佐和)ご尊父23・11・16

宮本 裕二氏(69卒・大みか)ご尊父23・12・6



462号のお詫び訂正

3頁 豊浦支部年頭挨拶文10行

(正) 株式会社プロテリアル

(誤) 株式会社プロリアル

6頁 令和5年度県知事表彰

(正) 小川 勝弘氏(68卒・国分)

(誤) 小川 勝広氏

12頁 日立中央地区懇親会2段10行目

(正) 杉山氏(51卒)

(誤) 杉山氏(53卒)

年賀状紹介

年始にあたり、本部会員の方々よ
り年賀状を頂戴いたしました。

・池田 武男氏(32卒)

・志田 博氏(40卒)

・小島喜代一氏(48卒)

・神代 光昭氏(48卒)

・鈴木 章氏(51卒)



私は毎年、日工同窓
会館にて初日の出を写
真に撮っている。今年
で3年目である。極寒
の中での待機となるので初めは焚き火
で凌いでいたが去年からはテントと薪
ストーブが手放せない。真つ暗な闇が
少しずつ朝焼けに染まる紫の世界。や
がて太陽の光が
世を包む。会館か
らの絶景を独り
占めである。毎年
付き合ってくれ
る妻にも感謝し
ている。(光)



小平浪平翁生誕150年記念展《オリジンパークで1/15～開催》

ごあいさつ

創業者小平浪平の生誕から150年を迎えた今年、日立オリジンパーク初の企画展「小平浪平翁生誕150年記念展『正直者』小平浪平を探る」を開催いたします。小平は、日本が外国技術に頼っていた時代、「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」という理念のもと、仲間と共に日立製作所を興し、幾多の困難を乗り越え様々な事業に真摯に取り組まれました。その人物像に迫ることは、グローバリゼンに「社会イノベーション事業」を展開する日立の原点を知ることでもあり、これからの社会を共に切り拓いていく力になると考えます。展示では小平の「言葉」、なかでも彼が生誕大切にした「正直者」という言葉に注目しています。正直者として生きた人間・小平浪平と共に探り、その心を未来につなげるきっかけとすることができれば幸いです。

日立オリジンパーク小平記念館長

Profile

創業者

小平 浪平

日立製作所の創業者 小平浪平は1874年栃木県下都賀郡中村合戦場(現在の栃木県栃木市)に生まれました。明治の躍動期に青年時代を過ごし、電気時代の始まりを背景に、「自らの力で電気機械を製作したい」との志を胸に日立製作所を創業しました。以来、卓越なる先見と不屈の努力により、現在の日立グループの礎を築き上げました。

企画展

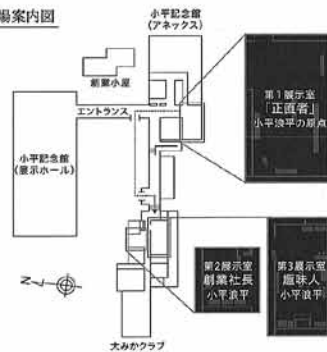
小平浪平翁生誕150年記念展

「正直者」小平浪平を探る

会 期: 2024年1月15日(月)～

会 場: 日立オリジンパーク内
小平記念館(アネックス)、大みかクラブ

会場案内図



株式会社日立製作所 日立オリジンパーク

住所: 〒319-1221 茨城県日立市大みか町6-19-22

TEL: 0294-87-7575

e-mail: origin.park.nt@hitachi.com

開館時間: 9:30～16:00(最終入館15:00)

休館日: 水曜日・祝日(その他の休館日はホームページをご覧ください)

※2024年4月より月曜日・祝日に変更となります

ホームページ: <https://origin.hitachi.co.jp>

日立グループでは、小平浪平翁生誕150年を記念し、小平浪平の言葉や日立の歴史に関する特別コンテンツを発信しています。詳しくは、以下の日立公式SNSアカウントやウェブサイトをご覧ください。



日立のウェブメディア「社会イノベーション」
social-innovation.hitachi/ja-jp/

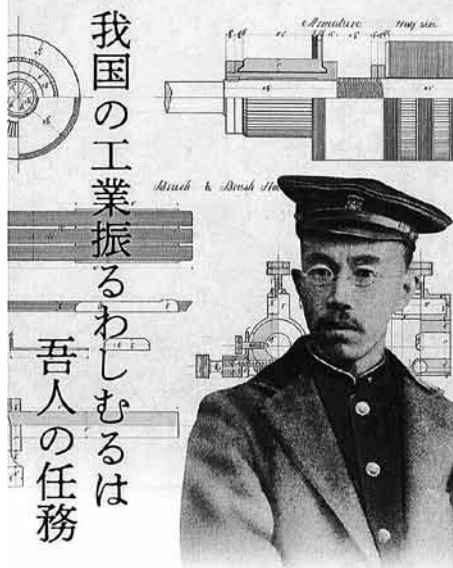
「正直者」小平浪平を探る

小平浪平翁生誕150年記念展



◎ 株式会社 日立製作所

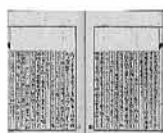
DETAILS.



第1展示室

「正直者」小平浪平の原点

1874(明治7)年、栃木県下都賀郡中村合戦場に生まれ、事業欲旺盛な父のもと科学や工業への関心を育んだ少年・小平浪平。学生時代、電気工学への進学を決意し、外国技術に頼らず自らの力で工業を興すという志を抱くまでの、日立精神の芽生えを探ります。



『発南日記』

第2展示室

創業社長 小平浪平

小坂鉱山での実績を経て、東京電燈の送電課長となった小平は、その地位を捨て、一技術者として日立鉱山に赴き工作課を指揮、国産初の5馬力誘導電動機を完成させ、日立製作所の創業を実現します。その後、苦難を乗り越え事業を飛躍・拡大させた、経営者としての信念を探ります。



日立精神は
つぶれはしない



誘惑に勝ち、高尚なる心境を保持するには、
何等かの趣味を持つを必要とす



第3展示室

趣味人 小平浪平

多趣味で50代からはゴルフを愛好していたプライベートでの笑顔、戦後の公職追放から追放解除までの晩年について、作品や愛用品を通して紹介するとともに、名声や名譽を求めず、実直に生き、多くを語ることなく身をもって人に教えたという、その人となりを探ります。



遺された色紙や書